

 城西大学
 城西短期大学



「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム」発足

地域を盛り上げる モデル発信

新グラウンド地鎮祭・起工式 2020年秋完成へ

3大学連携協定を締結

——本学と明海大学、日本医療科学大学

目次

- 02 [秋季学位記授与式・卒業証書授与式・入学式]
柔軟で誠実な感性と知識は
かけがえのない指標
- 03 「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム」発足
地域を盛り上げるモデル発信
- 04 3大学連携協定を締結
鶴ヶ島市の齋藤市長が特別講演
- 05 遠藤未紗希さん 「優秀演題賞」受賞
救急・延命講習会
——心肺蘇生法、AEDの使い方など学ぶ
群馬の郷土料理を「調理実習」
本学グラウンドが「空飛ぶ救命室」離着陸場に
- 06 新グラウンド地鎮祭・起工式
2020年秋完成へ
男子駅伝部
全日本大学駅伝の本戦出場決める
プロダンサーのバル憂愁さん 世界2位に
コンプライアンス研修会に体育会各クラブ参加
- 07 [新シリーズ]フォーカス
城西学園 創立100年
毛呂山町 「苺の里」田中英也さん
- 08 [シリーズ]先輩訪問
米スタンフォード大学アメリカンフットボール部コーチ
河田 剛さん
- 09 [シリーズ]学生互換
特別展「秩父巡礼」幕末の貴重資料を展示
「坂戸市所蔵美術品展 現代版画の世界」開催
- 10 [シリーズ]図書館だより
- 11 [エリア紹介]
坂戸市 関東有数のよさこいまつり
日高市 第5回 日高かわせみの里
ツアーウォーク
東武線沿線情報 小江戸「川越」へ
出かけませんか

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
9月14日に発足式があった「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム」(TJUP)。当日は参加の17大学の学長や地域連携の責任者、自治体の担当者ら約50人が出席して、プラットフォームのスタートを祝いました。発足式後は代表者による記念撮影があり、学長らは笑顔で写真に納まっていた。



入学式に臨んだ留学生たち

柔軟で誠実な感性と知識はかけがえのない指標

2018.9.20
秋季学位記授与式・卒業証書授与式・入学式

今年度の秋季学位記授与式・卒業証書授与式と入学式が9月20日、清光ホールで執り行われました。城西を巣立ったのは留学生を含む73人。新たに城西の仲間入りしたのは、中国、韓国、台湾、ハンガリー、ポーランド、ベトナム、マレーシアの7カ国からの留学生54人。式典の簡素化のため昨年同様、卒業式と入学式が同日開催となりました。

授与式では、学部、別科の代表者に白幡晶学長から学位記や卒業証書が手渡されました。また入学式では学部や別科別に入学者の紹介がありました。

白幡学長は告辞で卒業生に向けて「皆さんが、在学中に培った柔軟で誠実な感性と知識は、これからの高齢社会にとってかけがえのない指標になるはずですよ」と呼びかけ、新入生に対しては「チャレンジしたものだけが得られる充実感を城西大学で十分に味わい、確かな自分を確立してほしい」と激励の言葉をかけました。上原明理事長は祝辞で「明日の自分は、今日自分が何を考え、どんな行動をするかの結果です。皆さんも自分の人生設計をしっかりと考えながら歩んでいただきたい」と語りかけました。

来賓挨拶などに続き、卒業生を代表して福井美奈子さん(薬学部医療栄養学科)が「城西大学の卒業生であることに誇りを持ち、学んだことを社会に最大限活かしていきたい」と答辞を述べました。また、新入生を代表して中国の大連外国語大学からの留学生、鄭壬鈞さん(現代政策学部)が「個々の可能性を伸ばし、夢に向かって日々精進していきます」と誓いの言葉を述べました。



答辞を述べる福井美奈子さん



宣誓する鄭壬鈞さん

地域を盛り上げるモデル発信

2018
8.1

「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム」発足

東武東上線沿線と西武線沿線の大学、自治体、企業が連携を強めて地域の活性化や少子高齢化問題の解決などを目指す「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム」(TJUP)が8月1日に発足しました。参加したのは城西大学・城西短期大学をはじめ、明海大学、日本医療科学大学、埼玉医科大学、大東文化大学、女子栄養大学など17大学・短大。自治体は坂戸市をはじめ熊谷市、東松山市など13市町。9月14日に代表校の東京電機大学の埼玉鳩山キャンパスで行われた発足式には、白幡晶学長、玉城逸彦副学長らが出席しました。東京電機大学の安田浩学長が「こんなにたくさん集まってやるのは初めての試み。ここから発信していく流れがつかれるのでは」と開会挨拶。幹事校である本学の白幡学長は開会挨拶で「地域を変え、盛り上げる一つのモデルになるのではないか」と述べました=写真。



多様な高等教育提供へ 本学がリーダー校

これまでも大学と自治体、企業との連携はありましたが、個別の連携であったり、またコンソーシアム(機関・会議)を組織しているケースでも、個別の事案に対応したものであったりと、大きなビジョンに基づいた将来的な課題への対応というものではなかったのが実情でした。例えば本学も参加する「彩の国大学コンソーシアム」は、単位互換制度、公開講座、共通SDをテーマに大学間連携の組織として設立されましたが、自治体の問題解決や企業連携に関する取り組みには適さないところもありました。

TJUPは、彩の国大学コンソーシアムのメンバー校が中心となっているため単位互換制度など既存の協定を引き継ぐことが可能で、さらに地域と企業とも協力し合うことで地域活性化に取り組んでいくことが可能となります。

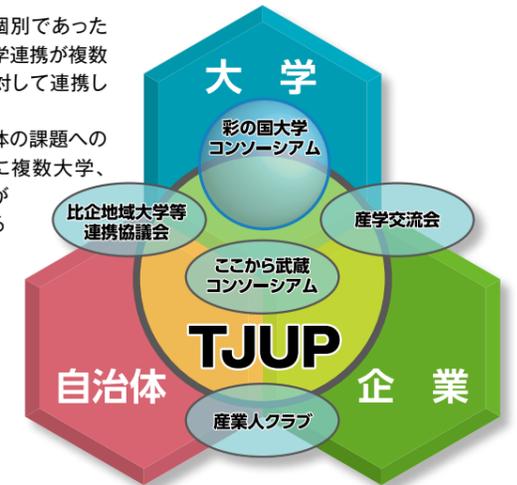
取り組みの大きな柱は、多様な高等教育の提供▽生活しやすい地域づくりへの貢献▽地域産業の活性化——の3本。それぞれについてワーキンググループ(WG)を立ち上げて検討し、その成果をおのおのが共有する仕組み。このうち、多様な高等教育の提供のWGでは、本学がリーダー校となっており、IPE(専門職連携教育)・IPW(多職種連携)プログラムの発展的展開を検討します。また、別のWGでは、社会人教育を対象に各大学が開設する履修証明プログラムを紐づけることによって、分野横断型の多彩な学習プログラムを構築して、市民・町民大学に提供することも検討していきます。

生活しやすい地域づくりへの貢献では、地域リスクマネジメント懇談会の立ち上げや課題解決のための共同研究に取り組みます。また、地域産業の活性化では、産学交流会などによる産業の活性化や共同研究推進事業、施設の共同利用などを推進していきます。

その他の参加大学は次の通り。(50音順)埼玉医科大学短期大学▽駿河台大学▽西武文理大学▽東京家政大学▽東邦音楽大学▽日本工業大学▽武蔵丘短期大学▽山村学園短期大学▽立正大学▽埼玉県立大学(オブザーバー)

TJUPは「連携しやすさ」が特徴

- これまで個別であった企業—大学連携が複数の大学に対して連携しやすい
- 地方自治体の課題への取り組みに複数大学、複数企業が連携できる



地域の中の大学連携

地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代の支援



3大学連携協定を締結

2018
7.3

本学と明海大学、日本医療科学大学 教育・研究で包括的に交流

本学は7月3日、明海大学、日本医療科学大学と教育・研究の包括的な交流と連携・協力の協定を締結しました＝写真。3大学は、次に掲げる事項について互いに連携協力します。(1) 共同の連携プロジェクト

(2) 教職員の交流(3) 学生の交流(4) 施設の相互利用(5) その他、本協定の目的を達成するために必要な事項。

白幡晶学長に連携の経緯や今後の取り組みなどについて聞きました。

——包括交流、連携・協力協定締結にいたった経緯をお教えてください。

「文部科学省の補助金による4大学(埼玉県立大学、日本工業大学、埼玉医科大学、城西大学)の医療系職種を中心とした多職種連携教育事業(2012～16年)から、大学にとっての連携のメリットを多く学びましたが、キャンパスが目と鼻の先にある3大学の連携によって、より実際的な連携ができるのではないかと考えました。もともといずれの大学も古くから交



左から日本医療科学大学の藤原博明学長、明海大学の安井利一学長、白幡晶学長

職員研修や入試を含めた課題情報などの共有、また、地域にとっても、連携した3大学の知的資源の同時活用が可能になるのではないかと考えています」

——連携プロジェクトなど今後の交流スケジュールをお教えてください。

「交流内容についての細かな打ち合わせはまだしていませんが、とにかくキャンパスが近いので、単位互換、施設の共同利用、学生の共同企画などはすぐにでも可能なのではないかと考えて

います。3大学ともに彩の国コンソーシアムや埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)などの大学連携などに参加していますので、それらの事業の中で行ういろいろなプロジェクトや活動でも協力しながら教育研究、地域貢献の幅を広めることができると思います。今年度中には、日本医療科学大学のリハビリテーション学科の学生さんたちに手伝っていただき、坂戸キャンパスのバリアフリーに関する評価をしてもらおうと計画しています」

流がありますし、教育資源の共有ができれば、医療系の教育連携だけでなく、隣接するキャンパス自体が特徴にもなるのではないかと思います、2大学の学長先生に声をかけた次第です」

——協定締結の意義とご感想をお聞かせください。

「各大学の学生にとっては、お互いの施設が利用できたり、単位互換により学びの幅が広がったり、各大学の限られた教育資源をつなげることでいろいろな可能性が考えられると思います。大学にとっても、教

鶴ヶ島市の齋藤市長が特別講演

経済学部の授業で「安定した市政運営」を講義

2018
6.21

鶴ヶ島市の齋藤芳久市長の特別講演会が6月21日、経済学部で行われました。「行政への参加」の授業の一環として行われたもので、2、3年生約150人が、「安定した市政運営～確実な前進～」をテーマにした齋藤市長の講義に聴き入りました＝写真。

齋藤市長は市議会議長などを経て昨年10月に無投票で市長に当選。この日の講演の冒頭、「関東、埼玉の中心に位置する鶴ヶ島市は観光地や特産物など何もないのが、特徴。しかし、一番いいのは災害もないこと」と市を紹介。「高齢化が進むなか、行政のサイクルをどう回していくかが、市長の役割」と語り、市内にない産婦人科医院の開設資金として5000万円を補助▽サッカー場、野球場、体育館などのスポーツ施設の建設計画▽地域の支え合い組織づくりの推進▽農業大



遠藤未紗希さん「優秀演題賞」受賞

2018
7.21～
22

——日本スポーツ栄養学会のポスター発表で

大学院薬学専攻科医療栄養学専攻の博士前期課程2年、遠藤未紗希さん(生体防御学講座)が7月21、22日に京都市で開かれた日本スポーツ栄養学会第5回大会で、「強制水泳試験によるラットの持久力運動に対する霊芝菌糸体培養培地抽出物(MAK)の効果」の題目でポスター発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。



日本スポーツ栄養学会「優秀演題賞」を受賞した遠藤未紗希さん

優秀演題賞は「調査・研究」および「実践報告」において一般発表、ポスター発表の中からそれぞれ優れた演題に対して表彰されるもの。この研究は、生体防御学講座(日比野康英教授)、薬品作用学講座(岡崎真理教授)と野田食菌工業株式会社が共同研究として推進しています。食品による抗疲労効果の研究は、エネルギー代謝関連遺伝子の発現解析や酸化機構の解析などを通して企業と連携しながら進めています。スポーツ関係の企業などを目指しているという遠藤さんは「このような賞をいただくことができたのは、日々熱心に指導して下さる多くの先生方と共に学んできた友人たちのおかげであり、心から感謝いたします。スポーツ栄養学は、スポーツを楽しむ多くの方の競技力向上や健康の維持・増進に栄養面から専門的なサポートを行うことを目的としている分野だと考えています。今回、運動負荷により生じる疲労に対する健康食品の効果についての基礎研究を表彰していただき、大変うれしく思っています。これを励みに今後もスポーツ栄養学の基礎研究の発展に貢献していけるよう日々精進していきます」と受賞の喜びを語っています。

救急・救命講習会

2018
7.26

心肺蘇生法、AEDの使い方など学ぶ

今年の救急・救命講習会が7月26日に行われました。坂戸・鶴ヶ島消防組合の方を講師に迎えての今回の講習会は課外活動団体代表者と教職員が対象で、約60人が参加しました。

講習では、まず心肺蘇生の大切さの解説があり、その後、心肺蘇生法とAEDの使い方、けがなどの応急措置などを、3グループに分かれた参加者一人ひとりが体験しました＝写真。講師の「蘇生する人の顔を見てください」「胸を押す手の甲は離さないで」などの声やAEDから流れる指示に合わせて、参加者は真剣な表情で訓練に取り組んでいました。



群馬の郷土料理を「調理実習」

2018
8.31

城西健康市民大学の人気プログラム

城西健康市民大学の人気プログラム「調理実習」が8月31日に開かれました。薬学部医療栄養学科(管理栄養士養成課程)の3年生6人と4年生3人、教官が、受講生の皆さんと一緒にプログラムに取り組みました。

調理実習の前に、楽しく調理実習をするための注意点や咀嚼の大切さ、料理と健康に関するアンケート調査、当日のメニュー「おつきりこみ」「こんにやくゼリー」「味噌田楽」「きゅうりとささみのピリ辛和え」の作り方の説明がありました。当日のリーダーが群馬県高崎市出身とあって、メニューは群馬県の郷土料理になりました。お楽しみの試食タイムでは、料理の感想のほか、出身地の郷土料理との比較などに話が盛り上がっていました。



「調理実習」のお手伝いをした学生ら

本学グラウンドが「空飛ぶ救命室」離着陸場に

「空飛ぶ救命室」とも呼ばれる救急医療用ヘリコプター(ドクターヘリ)の飛行場外離着陸場に総合グラウンドが指定されました＝写真。救急の際、総合グラウンドがドクターヘリと救急車が合流する場所になります。

埼玉県では2007年から川越市にある埼玉医科大学総合医療センターでドクターヘリ事業を開始。昨年度は約530件の出動実績がありました。事故などで発生した重傷者を一刻も早く医師の管理下に置き、医師による救命措置を施し、救命救急



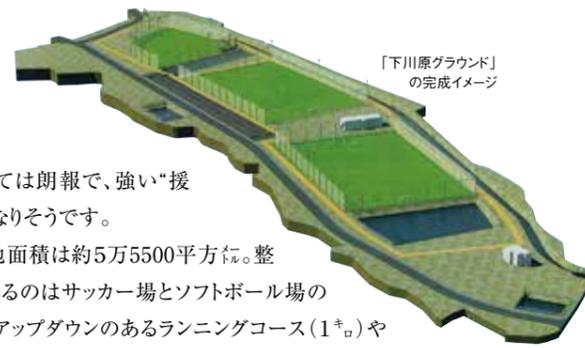
センターへ空路搬送します。坂戸・鶴ヶ島消防組合では、離着陸の際について、非常に大きな音が発生し、強風が発生するとともに砂などが舞い上がるとして、関係者以外の速やかな退避を呼び掛けています。

新グラウンド地鎮祭・起工式 2020年秋完成へ

2018
9.5

サッカー場2面、ソフトボール場1面など備える

大学の北側約2^{キロ}の毛呂山町下川原沼下=写真=に新グラウンド「下川原グラウンド」(仮称=第2グラウンド)が整備されることになり、9月5日に現地で工事の安全を祈願して地鎮祭と起工式が行われました。サッカー場2面とソフトボール場1面などを備え、2020年秋の完成を目指します。サッカー部とソフトボール部



「下川原グラウンド」の完成イメージ

にとっては朗報で、強い“援軍”になりそうです。

敷地面積は約5万5500平方^{メートル}。整備されるのはサッカー場とソフトボール場のほか、アップダウンのあるランニングコース(1^{キロ})や管理施設、夜間照明、駐車場など。鉄骨造り2階建て、延べ床面積約720平方^{メートル}の管理施設には、更衣室やシャワー室、監督室、ミーティングルームなどを備えます。

河川と町道の付け替えなど敷地造成の1期工事の後、グラウンド造成の2期工事に入ります。

男子駅伝部

全日本大学駅伝の本戦出場決める 初の「大学三大駅伝フル出場」

2018
6.30

全日本大学駅伝対校選手権大会(11月4日)の関東予選大会が6月30日、さいたま市の駒場運動公園陸上競技場で行われ、男子駅伝部は総合3位で2年連続7回目の本戦出場を決めました。すでに出場権を獲得していた出雲選抜駅伝(10月8日)、箱根駅伝(来年1月2、3日)と合わせて初めての大学三大駅伝フル出場が決まりました。

ムで競いました。競技は夕方からでしたが、熱く酷なコンディションの中、第1組で主将の服部潤哉選手(経営学部4年)が3位と好スタートを切りました。各校主力がそろった最終4組では、萩久保寛也選手(同3年)と大石巧選手(同4年)が29分台でそれぞれ11位と13位に食い込み、昨年の9位を大きく上回る3位に躍進しました。

全日本大学駅伝の関東予選大会で力走する4組の大石(中央)と萩久保(右)=月刊陸上競技提供

1万^{キロ}4組に各校2選手が出場、合計タイム



プロダンサーのバル憂弥さん 世界2位に 本学イベントでも勇壮なダンスを披露

2018
5

本学の様々なイベントで勇壮なファイアーナイフダンスを披露してくれた松島憂弥(芸名・バル憂弥)さんが、福島県いわき市のレジャー施設「スバリゾートハワイアンズ」でプロのダンサーとして活躍しています。5月に米ハワイであった世界選手権では2位に輝きました。松島さんは「スピードと高さを上げ、独自の技を増やして世界チャンピオンになりたい」と夢を語っています。



世界選手権で2位になったバル憂弥さん=右

ファイアーナイフダンスはポリネシア・サモアの伝統的な踊り。ハワイアンズでは、女性のフラダンスとともに人気となっています。松島さんは、小学1年生の夏休みに家族でハワイアンズを訪れた際にダンスと出会い、その魅力にとりつかれて独自に練習を重ねてきました。2016年の卒業時に決まっていた地元

の金融機関の就職を辞退して、弟の史弥さんとハワイアンズに就職しました。憂弥さんと史弥さんは、ダンスチーム「シバオラ」のメンバーとして活躍しています。ハワイでの結果に「信じられなかった。これまでファイアー中心の人生を送ってきたので、報われたという気持ち」と振り返る憂弥さん。「スキルを高めてお客様を楽しませ、感動させたい」と話しています。

コンプライアンス研修会に 体育会各クラブ参加

2018
7.17

今年度の体育会運動部コンプライアンス研修会が7月17日に開かれました。各クラブの学生を中心に、白幡晶学長、各クラブ部長、監督、コーチなど多数の関係者が参加しました。研修では講師の小野正人学生部長が、過去の事例を紹介しながら、大学スポーツにおける



コンプライアンス、個々の運動部員が取り組むべきことについて解説を行いました=写真=

また、講義内容を振り返るために参加学生にリフレクションペーパーが配布され、運動部員が守るべきことやクラブで期待されている役割、今後の抱負等について、学生自身の考えを求めました。

フォーカス

附属高校のトピックスを紹介するとともに連携協定を結んでいる近隣自治体のキーパーソンに登場いただくシリーズ「フォーカス」。今号は、城西学園100周年と、毛呂山町でイチゴの生産から加工・販売と6次産業化を展開している本学OBの「莓の里」代表取締役社長、田中英也(50)さんに焦点をあてました。

城西学園 創立100年 1世紀の歩み振り返り盛大に祝賀会

学校法人城西学園(東京都豊島区)の創立100周年記念祝賀会が6月18日、同区のホテルで盛大に行われました。祝賀会には、城西学園の新藤博明理事長や斉藤栄・城西大学附属城西中学・高等学校校長、本学の上原明理事長、白幡晶・城西大学学長、杉林堅次・城西国際大学学長ら関係者約350人が出席、1世紀にわたる学園の歩みを振り返り、今後の学園の発展を祈りました。

城西学園は1918(大正7)年、中島久万吉男爵によって創立された城西実務学校が始まり。現在、城西中学・高等学校と城西放射線技術専門学校を運営しています。城西大学は1965(昭和40)年、大蔵大臣などを歴任した水田三喜男先生と城西学園の理事長、学園長を務めた新藤富五郎氏の主導によって創立され、今日に至っています。

祝賀会では、新藤理事長と斉藤校長の挨拶



祝辞を述べる上原明理事長

校歌を合唱する城西学園「グリー部」

「イチゴも名産になればうれしい」

毛呂山町 「莓の里」田中英也さん —インタビュー—

—イチゴの生産を始めたきっかけは?

「大学を卒業して初めは化粧品会社の営業。その後、外で仕事したいと大工になり、勤めを続けていた妻には苦勞をかけました。妻と家族で出来る仕事したいねと話していたところ、妻が農園をやりたいと言い出して、農業に入ったのです。39歳の時でした」



田中英也さん

—9月には万年橋近くでケーキの店「ストロベリー・ガーデン」を新規オープンされました。

「イチゴ農園2カ所と直売所3カ所を経営していますが、春先はやはり生産が過剰になり、どうしてもさばき切れない時があります。奇形やちょっとした傷のあるものも含めて加工すれば、廃棄する悔しい思いをしないで済むと加工に乗り出したわけです。捨てるのはヘタだけです」

—お店の“売り”は何ですか。

「人気があるのは、イチゴのロールケーキとイチゴ大福ですね。パティシエがいるケーキ屋さんと違って、普通のケーキですが、生産者だけにイチゴを惜しみなく使えるのがうちの強みです。ロールケーキに大きなイチゴが入っていますし、イチゴ大福には中と外に2個のイチゴを使っています」

—今後の夢は何ですか。

「毛呂山はユズが有名ですが、お土産のイチゴもおいしいねと言ってもらって、名産になればうれしいです。ケーキはネットで全国展開もしたいと思っています」

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は、名門のスタンフォード大学アメリカンフットボール部のコーチを務め、米国プロフットボールリーグ(NFL)に最も近い存在と言われる河田剛さん(46)に聞きました。



チャレンジ、競争をしないと成長や責任も生まれない

米スタンフォード大学アメリカンフットボール部コーチ **河田 剛さん** (1995年 経済学部卒)

— アメフトとの出会いは。

「高校時代は野球をしていましたが、中高時代からテレビでNFLの中継を見ていて、カッコいいと思っていました。もう一つは、当時テレビで人気だったラグビーものの『スクール・ウォーズ』世代だったので、大学ではラグビーかアメフトをやりたいと思っていて両方から勧誘されたんですが、グラウンドが近かったアメフトを選びました(笑)。何が正しい(練習)かも分からず、暗中模索の4年間でしたが、本当に楽しかったですね。社会人では、天然芝のグラウンドにアメリカ人のコーチが2人。聞いたこともない戦略に戦術、それらを遂行する細かいテクニックも。何なんだこれは、と思いました。こんなに楽しいことがあったんだと思いましたね」

— あちらではまた違ったアメフトがあったと。

「アメリカの大学スポーツではオン・シーズンとオフ・シーズンが明確に決まっていて、アメフトの場合、7月末から11月末のオン・シーズン以外は練習してはいけないんです。だから指導者は限られた時間の中で成果を出すことが求められる。それもまた面白い。オフ・シーズンの間、コーチはリクルーティング(勧誘)活動をし、何人かの選手は別のスポーツをし(マルチ・スポーツ)、勉強にいそむ。アメリカ生活は驚きの連続です。フットボールの指導者としても、日本のスポーツに深くかわる者としても」

— 2007年、単身渡米しスタンフォードには飛び込み営業だったとお聞きしています。

「ちょっと知っている先方のコーチがいて、まずは窓口の総務の事務方に行きました。面倒くさがられ『今日は帰れ』と突っぱねられました。コーチに相談すると、『ちょっと作戦考えよう』と。コーチが言うには、ヘッドコーチはちょっと変わった人で、『機嫌がいい時に行けば大丈夫だから』と。翌日、呼ばれていたら、ヘッドコーチに『それほどフットボールが好きならちょっとやってみろ』とボランティアコーチでの採用がきました」

— アメリカから見た日本のスポーツはどう映りますか。「ガラパゴス化している日本のスポーツ」とも主張されています。

「基本的にスポーツは社会、文化と切り離すことはできないと思います。アメリカではビジネスとスポーツが同じ土俵で勝負しています。日本ではセクハラ、パワハラ問題でも大きく遅れている。日本大学の『危険タックル』問題も、監督が時代に合わない指

導を続けてきたことを誰にも咎められないままパワーを持ってしまったということですね」

— 2020年に2度目の東京五輪が開かれます。日本のスポーツ界への提言をお願いします。

「できるだけ多くの指導者にアメリカで起きていることを知ってほしいと思います。選手の人生が大きな円だとしたら、指導者がかかわれるのは一つの点ぐらいにすぎない。たかだか点ぐらいにしかかかわれない人が、ケガなどの負の遺産を残すことはできないですよ。向こうに行くと2008年の北京五輪でスタンフォード関係者が取ったメダルの数が25個で日本と同じ数だったと聞いてショックを受けました。その時、日本のスポーツをどうにかしなければいけないと思ったのが、私の今の活動につながっています」

— 座右の銘を。

「『グッド・イン、グッド・アウト』です。いいことを学んだら、その分、皆でシェアしようということです。尊敬する先輩の座右の銘である『努力は正しい方向にすべきである』も好きです。本人もチームとしても正しい方向を見る、少なくとも探す努力をするのとは大きく違う。この言葉が好きで、その方向に導く仕事であるコーチを選んだのかもしれない」

— 後輩にメッセージをいただけますか。

「月並みですけど、チャレンジすることを恐れては何も始まりません。といっても私もチャレンジするのにだいぶ時間がたちましたが……。『やりたいことをやればいい』と無責任なことは言えませんし、それぞれの事情もありますが、日々の小さいことでもいいんです。たやすいチャレンジでもいいんです。自分と競争することしないと、成長と責任も生まれません。成長と責任が生まれると、そこに報酬がついてきます」

■河田 剛氏

1972年、さいたま生まれ。91年城西大学でアメリカンフットボールを始め、95年リクルート関連会社入社と同時に「リクルートシーガルズ(現オービックシーガルズ)」で活動。選手として4回、コーチとして1回、日本一達成。2007年に渡米し、スタンフォード大学アメリカンフットボール部でボランティアコーチ就任。11年から正式に採用され、オフェンス・アシスタントに就任。現在、オービックシーガルズのアドバイザー、大阪経済大学客員教授も務める。日本人の選手や指導者の中で、米プロフットボール(NFL)に最も近い存在と言われている。今年4月、日本のスポーツ界に警鐘を鳴らす「不合理だらけの日本スポーツ界」(ディスカバー・携書)を刊行した。

学生瓦版

広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回は天文研究会とFOLK SWINGING CLUBを紹介します。

星座にまつわる神話、とても面白い 天文研究会 部長 朴カラムさん(経済学部3年)

天文研究会は部員61人で毎週水曜日に活動している。それぞれの時期の星座観測や学外での観測会、東京都内でのプラネタリウム鑑賞などだ。時には年に数回起こる流星群やスーパームーンなどの月の現象を観測することもある。天気が悪く観測ができない場合は、より星の姿を知るために望遠鏡の使い方などを学んでいるという。

部長の朴カラムさん(経済学部3年)は、「有名な夏の大三角には、星座にまつわる神話が数々あり、とても面白い。多くの人に星にまつわる話を教えてあげたい」と話す。星や星座にまつわる神話などを知っておくと、星や星座の見方が変わってくるかもしれない。星を見ることが好き、星の姿をもっと知りたいという人は、ぜひ天文研究会へ。

(取材:放送局一同)



部室の入り口に掲げられた「天文研究会」のプレート

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています jukoho1@gmail.com

音楽を通して学生生活を充実したものに FOLK SWINGING CLUB 部長 菅沼有人さん(現代政策学部3年)

「FOLK SWINGING CLUB」(フォーク・スウィング・クラブ)は、1年生から4年生の約90人が所属している伝統ある文科系クラブだ=写真。毎週月曜日にその週のスタジオのシフト決めやイベントの連絡を行う部会を開いている。決めたシフトによって体育館施設の1階にあるスタジオで練習をしている。練習の成果は月に1回、清光ホールや学生ホールで開催されるライブで披露され、年に1回は学外でのライブも行っている。

部長の菅沼有人さん(現代政策学部3年)をはじめ、部員たちは和気あいあいとした雰囲気の中でクラブ活動を楽しんでいる。「音楽を通して学生生活を充実したものに」というのが、部員たちの思いだ。

(取材:渉外局一同)



2018.7.10~9.15

特別展「秩父巡礼」 幕末の貴重資料を展示

水田美術館で特別展「埼玉の歴史と文化に触れるII 秩父巡礼」が7月10日から9月15日まで開かれました=写真。秩父市に点在する34カ所の観音霊場を廻る秩父巡礼は当初、西国三十三札所、坂東



三十三札所にならい、33の札所を巡るものでしたが、17世紀前半ごろから、34の札所へと変わり、以降三つの

巡礼を合わせて「日本百観音」と呼び、親しまれるようになりました。

今回の展示作品は、各霊場の縁起を三代目歌川豊国が描き、境内の景観を二代目歌川広重が描いたもので、幕末期の観音霊場紹介の資料として貴重なものです。34点を前期と後期に分けて展示。また、江戸時代から明治期にかけての秩父巡礼あるいは、秩父に関する研究書や日記、絵図なども併せて紹介。さらに秩父の各札所を中心に、秩父の自然や文化を紹介するパネル展示も行いました。

2018.11.3~

「坂戸市所蔵美術品展 現代版画の世界」開催

水田美術館では11月3日から、坂戸市が所蔵する現代版画を展示する「坂戸市所蔵美術品展 現代版画の世界」を開催します。

本学がある坂戸市は、現代を中心とした美術工芸品を所蔵していま



東谷武美「日蝕」リトグラフ(アルミ版)、1982年

す。点数はおよそ150点で、油彩画、日本画、版画、書などで構成されています。今回の展覧会では、所蔵品の中から現代版画に焦点を当て、銅版画、リトグラフ、木版画作品計44点を

前期(〜12月8日)と後期(12月13日〜来年1月26日)に分けて紹介します。前期では、現代銅版画の第一人者である中林忠良(1937〜)の「転位」シリーズを中心とした1960年代から90年代前半までの銅版画13点と、中林に師事した東谷武美(1948〜)のリトグラフ「日蝕」シリーズのうち1980年代から90年代の作品9点の計22点を展示。後期では山本容子(1952〜)、鈴木英明(1945〜)、筆塚稔尚(1957〜)の3人の銅板・木版画計22点を展示します。版画の持つ多様な表現世界が楽しめる展覧会になりそうです。

第15回ライブラリーラウンジ「問題解決ストーリー」を開催しました

水田記念図書館では図書館をよく利用される地域の方々に本の魅力や読書の大切さを紹介する活動など、学生たちが少しでも本好きになれるようなアドバイスをいただく「図書館地域アドバイザー制度」を設けて

おり、現在8人の方が登録されています。

6月6日はそのお一人である馬場純一氏＝写真⑤＝を講師にお招き

し、学生アドバイザー主催のライブラリーラウンジ「問題解決ストーリー」を開催しました。当日は城西大学の学生や教員のほ



か、地域の方々から72人が参加しました＝写真⑥。ご自身の仕事で培った貴重な知識や体験談を交えながら「PDCAサイク

ル」、「QC(Quality Control)手法」などを使った目標達成の方法や日常生活への活かし方を熱く語っていただきました。

学生アドバイザー企画 ～城西大学水田記念図書館の七夕～

6月26日～7月7日に学生アドバイザーの初めての試みとして「城西大学水田記念図書館の七夕」を企画しました。図書館学生アドバイザーが「短冊」を図書館入り口に筆記用具とともに用意し、学生の皆さんが年に1度の特別な日に向けてそれぞれの願い事を短冊に込めました＝写真。同時にアドバイザーが選んだ「小さな願い事を叶える本」の展示も行いました。



「学生選書2018 Part1」を開催しました



「学生選書」とは《図書館で購入する図書》を学生自身が選べるイベントです。2011年後期より年2回実施しており、これまでに375人の学生が参加しました。今年度も前期(5月21日～6月2日)に「学生選書2018 Part1」を実施し、32人が選んだ90冊が新しく図書館の蔵書となりました＝

写真⑦。

参加した学生からは「普段目向けけない本と出会う良い機会を得た」「様々な本を見てみてタイトルから興味を引かれるということに気付くことができた」など貴重なご意見をいただきました。

今回の学生選書で選ばれた本は、6月下旬からミニ展示「学生選書2018 Part1」学生が選んだおす



すめ本90冊」にて選書してくれた学生のコメント付きで展示・貸出を行いました＝写真⑧。秋にも「学生選書Part2」を予定していますので目にした際には、ぜひ手に取ってみてください。

エリア紹介

坂戸市

関東有数のよさこいまつり

「がんばろう日本! 元気を坂戸から!」を合言葉に第18回坂戸よさこいが10月20日(土)と21日(日)に開催されます。平成13年に市制施行25周年を記念して始まった「坂戸よさこい」＝写真＝は今年で18回目を迎え、関東有数のよさこいまつりに成長しました。

今年は、市内外から66チーム、約2600人の踊り子たちが坂戸市に集い、情熱と笑顔で全国に元気を届けます。パレード会場では個性豊かな衣装を身にまとった踊り子たちによる

流し踊りが、ステージ会場では東北、その他各地の名産品や市内商工農団体のグルメを堪能しながら各チームの迫力ある演舞を楽しめます。

また、両日ステージ会場で行われる「坂戸よさこい総踊り」では、踊り子、観客の垣根を越えて、たくさんの人が坂戸よさこいオリジナル曲を演奏し、会場の盛り上がりは最高潮に達します。

今年の秋は、「見て」「食べて」「踊って」楽しめる「坂戸よさこい」へ!!

開催日時 10月20日＝午前10時～午後7時
10月21日＝午前10時～午後6時



日高市

第5回 日高かわせみの里 ツーデーウォーク

日高市では参加者の健康増進とともに、日高の歴史や魅力をより多くの方に知っていただくため、11月24日(土)と25日(日)に巾着田をメイン会場とした「日高かわせみの里 ツーデーウォーク」を開催します。今年は高麗神社や横手深谷などの定番紅葉コースや高麗川沿いの遊歩道コース、関東平野が一望できる日和田山を登るコースなど5コースから28コースまで、2日間で全9コースを設定しています。

自分の体力に合わせて、お子様からご年配の方まで誰でも気軽に参加で

きます。色とりどりの紅葉と清流・高麗川のせせらぎを間近で感じ、日高ならではの美しい秋色＝写真＝を求めて歩いてみませんか。高麗神社では参加者限定の御朱印を頒布していただけます。詳しくは、日高市ホームページをご覧ください。事前申し込みは11月12日(月)まで。窓口での申し込みのほか、パソコン、スマートフォン、Famiポート、郵便振り込みでもお申し込みできます。たくさんの方の参加をお待ちしています。



東武線沿線情報

小江戸「川越」へ 出かけませんか

東武上線池袋駅から最速27分の小江戸「川越」。かつて新河岸川の舟運で栄えた川越は、江戸との文化、商業の交流が盛んに行われていました。今でも江戸の風情が残る、蔵造りの町並みや菓子屋横丁などがあります。その他にスイーツはもちろん、芋料理など多くの飲食店が軒を連ねています。また、秋には喜多院での見事な紅葉をご覧いただけます＝写真。この機会に便利でお得なきっぷ「小江戸川越クーポン」でぜひお出かけください。

池袋駅からは大人1000円。以下の特典があります。

- ◆川越駅・川越市駅までの東武東上線往復鉄道運賃が割引
 - ◆東武バス1日乗り放題(指定区間)
 - ◆協賛店のうれしいサービス
- 問い合わせは、東武鉄道お客さまセンター
(03-5962-0102)



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
Tel.049-271-7712
http://www.josai.ac.jp